

公的助成活用事例編 25

ヴァリユード・カンパニー

Valued Company

公的助成を受けるに値する、価値ある事業を展開する企業を紹介するシリーズです。

研究 技術 開発

やれるぞ、サポイン。 東進電機工業株式会社（長野県）



「自社製品を世に出せたのが何よりうれしい」と語る宮下氏。

「戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）」は、研究・技術開発型の中小企業にとって憧れの補助金。採択は狭き門といわれ、実際、中堅企業が多数を占めますが、小さな会社でも難関を突破するのは不可能ではありません。そうした事例として、今回、2014年度のサポインに採択され、服薬支援機器「eお薬さん」（販売・エーザイ株式会社）を開発した東進電機工業株式会社を紹介。宮下功司社長に、プロジェクト完遂までの道のりを伺いました。

従業員20人の会社が、初の申請でサポイン採択。

サポイン採択の難しさを知る人は、同社の認定を奇跡だと言っ。従業員20人ほどの会社が事業管理機関※を兼務。約1カ月で研究開発計画を作成。初めての申請で採

択。サポイン認定だけの評価で融資・信用保証を獲得。そして、要素技術ではなく最終製品が対象。同社は異例づくめのケースなのだ。「しかも、最終製品をつくるのはわが社の悲願だったので、その意味でもうれしかったですね」と、宮下氏は感慨深げに振り返る。

同社は、09年、宮下氏が電子機器メーカーに勤めていたときの先輩技術者と一緒に起業。基板製造や機器組み立てなどを中心にさまざまなサブ加工を手がけ、近隣のものづくり企業から重宝されていた。

「でも、しよせんは下請け。いつか自分たちがつくったものを世に出そう」との夢を抱きつつ事業を続けていた11年、取引先に誘われてエーザイの研究室を訪れた。日々の服薬を管理し、その情報を電子化する機器をつくりたいとの話で、宮下氏はモック製作を始めることになった。仕事の合間を使い、約3年にわたる試作を重ね、薬を取ったことをセンサーで判別し情報を送信する「eお薬さん」の原型ができあがった。

「ところが、いざ製品化となると、費用が数億円もかかる。エーザイさんも予算を組めず、いったんお蔵入

りとなりました」

とはいえ、徐々に仕事が減っていた時期で、この話が流れれば同社の前途も厳しい。そんなおり、たまたまネットで目にしたのがサポインの公募。「補助金が9750万円も受け取れる」。宮下氏は、わらをもつかむ心境だったという。

事業管理機関を兼務し、資金調達も自力で行う。

そこで期日を見ると4月10日。今は2月下旬。とりあえず関東経済産業局に相談に行くと、「初めて？ウソでしょ。締め切りまで

2カ月もありませんよ」「この計画は単なる商品開発で、研究ではないですよ」と最初は否定的な反応。しかし宮下氏は食い下がり、何度も通ううちに、そこは人対人、打ち解けてくると、いろいろアドバイスしてくれるようになった。「公募要領をそのまま読んでダメ。自社に都合の良いように読み替えてみたら」とまで言ってくれた。

さて、具体的に動こうとしたとき、まず立ちはだかったのが事業管

理機関探し。話をした候補機関には、ことごとく断られてしまった。困りはてて関東経済産業局に泣きつく。担当者から「事業管理機関を別に立てないケースもありますよ」との返答。ただし自社で兼務するのは中堅規模以上の企業で、しかも初めて申請を行う宮下氏にとっては無謀ともいえた。それでも「躊躇（ちゆうちゆ）している余裕はない」と、自力で申請を行うことにした。

次に問題となったのは資金調達。「予算消化後でないと補助金はもらえない。



eお薬さん

1日最大4回、所定の種類・量の薬が入ったケースを送り出すとともに、服薬情報が家族や介護者のもとへ送信され見守りツールとしても機能する。



東進電機工業株式会社
〒389-0505
長野県東御市和1106-4
☎0268-75-8225
<http://www.toushindenki.com/>

※研究開発計画の作成や補助金申請、資金調達、進行管理、予算管理、事業化支援など、プロジェクトの円滑な遂行をサポートする。

そんなことも知りませんでした」

何件もの金融機関に足を運んだが、担保もなく、サポイン認定だけを評価して融資してくれるところはない。たまたま、ある地方銀行の担当者がサポインについて調べ、ハードルの高い補助金だと理解して、採択の際の融資を約束してくれた。さらに、保証協会にも自ら計画を説明。サポインでの信用保証は本邦初だと驚かれた。



準備を始めてから約1カ月。「最後の1週間は寝ずに書類を書いた」という宮下氏は、期日ギリギリに申請し、2カ月後、採択の連絡が入った。「当時、マスクが取り上げられていたことが採択に有利に働いたようです」

難しいと尻込みせず、まずは門を叩いてみよう。

プロジェクトは同社が法認定事業者で、エーザイが間接補助事業者。信州大学と国立障害者リハビリセンターがアドバイザーとして参加し、お年寄りが使いやすいように、現場の生の声を反映して工夫を重ねた。

「例えば、手が不自由な方でも薬を取り出せるように、手袋を二枚重ねにして繰り返し試したりね。特に、薬ケースがひとつずつトレーから出てくるようにするためのギアをつくるのは苦労しました」

2年目には、デモ機をエーザイに提供し、半年のフィールド調査を実施。そこでの要望を反映してさらに改善を重ね、採択から2年半後の17年1月に販売へとこぎつけた。

当初は社長の道楽のように捉えて半信半疑な社員もいたが、自社製品を世の中に送り出したことで、会社と事業に、皆が誇りと自信をもてるようになったという。

「それに、こんな小さな町工場が、エーザイという大企業に供給する最終製品がつくれたとなると、外部の見る目も変わります」

さて、「戦略的基盤技術」と聞くと、たいそう高度なものに思えて尻込みしてしまう人も多いかもしれない。しかし同社が行ったのは、通常の商品開発とそう違わない。

「それでも採択されることがあるんです。関東経済産業局の人が言っていたように、難しいお役所言葉を、自分たちがやりたいことに当てはめて解釈し直してみる。そして、相手がお役人だからと敬遠しないで、思いついて門を叩いてみる。実際に会ってみると、みんな優しい人たちばかりで、やる気のある中小企業を一生懸命応援してくれますよ」

研究・技術開発で活用できる主な公的助成制度(概要)

*経済産業省、NEDO発表の2019年度施策情報に基づいて作成しています。

2019年度まで複数年度にわたり事業が継続し、2020年度予算政府案に含まれているものを掲載。

制度名	主な受給要件	受給金額
ものづくり補助金 (ものづくり・商業・サービス高度連携促進補助金)	「ものづくり技術」 ^{※1} の場合、複数(最大10)の中小企業者等が特定ものづくり基盤技術 ^{※2} を活用した革新的な試作品開発・生産プロセスの改善を行い生産性などを向上させる計画を策定し、その実効性などが認定支援機関によって確認されること。(対象期間6カ月程度) *事業者間でデータ・情報の共有・共用を行う「企業間データ活用型」と、地域の特性を生かす「地域経済牽引型」の事業類型があります。	企業間データ活用型: 1事業者当たり最大2,000万円 *さらに、事業者数×200万円を加算。 地域経済牽引型: 1事業者当たり最大1,000万円 (いずれも補助率1/2または2/3以内)
サポイン事業 (戦略的基盤技術高度化支援事業)	中小企業者が大学などの研究機関等と共同体を構成し、特定ものづくり基盤技術 ^{※2} の向上につながる研究開発を行い、試作品開発、販路開拓に取り組むこと。(対象期間2年または3年)	2年間の合計:最大7,500万円 3年間の合計:最大9,750万円 (補助率2/3以内)
NEDO先導研究プログラム/ 新技術先導研究プログラム	新産業創出を目的とした所定の研究開発課題を受け、大学等との産学連携体制により、新規性・独創性・革新性がある技術・システムの先導的研究を行うこと。将来的には、国家プロジェクト化等をめざす。(対象期間1年[必要に応じて2年程度])	最大5,000万円/年 *特に必要性が認められる場合、1億円。 (補助率100%)

※1 ほかにも、商業・サービス業向けの「革新的サービス」もあります。

※2 「中小ものづくり高度化法」に基づき、経済産業大臣が指定する12技術分野(デザイン開発、情報処理、精密加工、製造環境など)。

*詳しくは、検索サイトでそれぞれ「平成31年度当初予算 ものづくり・商業・サービス高度連携促進補助金」「平成31年度予算 戦略的基盤技術高度化支援事業」「2019年度 NEDO先導的研究プログラム/新技術先導研究プログラム」と入力し、該当のリンク先をご覧ください。(いずれも2019年度の情報で、公募は終了しています。)

(注)

記事中に記載の法令や制度等は取材当時のもので、将来変更されることがあります。詳細につきましては、各専門家にご相談いただきますようお願いいたします。